

当院で腹腔鏡下子宮全摘術を受けられた患者さんの 情報を研究に利用することについてのお知らせ

小倉医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。本研究に関するご質問等がありましたら下記の[当院の問い合わせ窓口]までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、当該研究に検体・カルテ情報が用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の[当院の問い合わせ窓口]までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 当院における腹腔鏡下子宮全摘術に関する後方視的検討

[当院の研究責任者] 産婦人科医師 石橋 弘樹

[研究の背景]

近年、腹腔鏡手術は患者さんにとって低侵襲な治療法のひとつであることから近年急速に普及してきています。子宮筋腫や子宮腺筋症等で月経血の増加や月経が長期化することで貧血をきたしたり、それらにより日常生活に支障をきたす患者さんに行われる手術療法に腹腔鏡下子宮全摘術があります。腹腔鏡下子宮全摘術において重大な合併症のひとつに尿管損傷があり、尿管の走行を認識しながら手術を遂行することはとても重要とされています。尿管を同定する方法にいくつかの方法があり当院では主に尿管を常時視野に入れ手術を行うことができる後方アプローチを施行しています。一方で、子宮内膜症等で癒着が激しい場合などは尿管損傷の予防の観点から後方アプローチの施行が困難で他のアプローチ方法に変更することもあります。

[研究の目的]

今回腹腔鏡下子宮全摘術における尿管を同定するための後方アプローチの有効性と安全性について検討します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

西暦2020年1月から2023年12月まで間に当院で腹腔鏡下子宮全摘術を施行した患者さん

(臨床研究に関する公開情報/単施設実施用)

●研究期間：西暦 2024年 1 月から 2025年 12 月

●利用する検体、カルテ情報

診療録情報（カルテと手術動画）を用いて後方視的に下記の臨床情報を取得して有効性と安全性について必要な検討を行います。

① 臨床所見

（年齢、身長、体重、経産歴、既往歴、術前 GnRH アゴニスト投与の有無等）

② 手術所見

（手術時間、手術合併症の有無、術中出血量、尿管同定までに要する時間等）

③ 病理組織学的診断（検体重量含む）

●検体や情報の管理

この研究により得られた診療情報は、当該研究の終了について報告された日から5年を経過した日又は当該研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日までの期間、当院の研究責任者が責任をもって適切に保管します。情報を廃棄する場合は、個人を識別できない状態で適切に廃棄いたします。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[当院の問い合わせ窓口]

国立病院機構小倉医療センター

産婦人科医師 石橋弘樹

〒802-8533 北九州市小倉南区春ヶ丘 10 番 1 号

電話 093-921-8881